



Handa Byouin Dayori

半田病院だより

半田市立半田病院



最終号

知多半島総合医療センター



令和7年4月
移転・名称変更

令和7年4月1日、「半田市立半田病院」は「知多半島総合医療センター」へ生まれ変わり、「知多半島りんくう病院(現:常滑市民病院)」とともに「地方独立行政法人知多半島総合医療機構」という新たな組織となります。新医療機構の中で当院の担う主な役割は、24時間体制の救命救急センターを核とした高度急性期医療を中心に、がん治療や先進の設備を活用した高度医療を提供することです。今回の半田病院だよりでは、新しい施設・設備のご紹介を行います。記事内の写真は機材搬入前のものですが、院内の様子をぜひご覧ください!

無事に建物が完成した知多半島総合医療センターを、当院YouTube制作チームがお散歩してきました!動画はこちら♪



半田市立半田病院 広報部会

外来

総合受付や患者サポートセンター、各科外来、中央処置室が並んでいます。

現病院の外来は1階と2階にあったため、患者さんが階段やエレベーターを使って上下する必要がありました。

そのような負担を減らすため、知多半島総合医療センターの外来は全て1階に集約しました。



患者サポートセンター

地域医療連携室、入院支援センター、がん相談支援センター、療養支援窓口、セカンドオピニオン相談窓口、こまりと相談窓口を一か所に集約しました。これまでは窓口が分かれていたため、患者さんもどこに相談すれば良いか迷われることもありましたが、患者さんが相談したいときに迷うことなく向かうことができるフロアになりました。



救急医療

知多半島エリアの救命救急センターとして、救急医療に尽力しています。ドクターヘリが離着陸可能なヘリポートを設置し、初療室や診察室を増設しました。CTやMRIなどの検査設備を救命救急センターの隣に設置し、迅速な検査が可能な体制を整えています。

さらに、救命救急センターと、手術センター、ヘリポートをつなぐ救急専用エレベーターを設置しました。集中治療室(GICU・EICU・SCU)への動線も確保されており、搬送直後からスムーズに診療することができます。



がん治療

地域がん診療連携拠点病院として、知多半島のがん治療をけん引していきます。

がんの三大治療といわれる、手術・放射線治療・薬物療法(抗がん剤治療)を中心に、専門性の高い医療を提供します。

写真は薬物療法センター(現:外来化学療法室)ですが、現病院ではベッド5床、リクライニングチェア10台のところを、知多半島総合医療センターではベッド12床、リクライニングチェア22台まで増設します。

他にも放射線治療のための先進医療機器を導入するなど、より高度な医療の提供が可能になります。



災害医療

現病院にはドクターヘリを着陸させる場所がなかったため、ドクターヘリを使用する際は隣接するさくら小学校の校庭へ着陸させてから病院へ搬送しておりましたが、知多半島総合医療センターでは、患者さんの救命率の向上や後遺障害軽減等の効果を得るため、病院の屋上にヘリポートを設置しました。



薬剤科

薬剤科では、チーム医療の一員として薬物療法を通して安心安全な医療を提供することを目標として日々業務に取り組んでいます。また、切れ目なく適切な薬物療法が提供できるよう、入院前から退院後まで患者さんとの関わりを大切にしています。



新病院移転に伴い、新しいシステムや機械を導入することで、より正確な調剤や薬剤管理を目指します。注射調剤の機械を新調することで、注射調剤の速度が向上し、24時間体制で患者さんごとに点滴を取り揃えて病棟へ払い出すことが可能になります。さらに患者さんの手元にスムーズに薬が渡るよう、夜間帯には搬送ロボットを使用して薬剤科から病棟まで薬を配送します。外来薬物療法は患者さんが点滴を受ける場所で一連の薬剤師業務が行えるようになります。これにより患者さんの状況をより把握しやすくなり、安全な薬剤管理が可能となります。

新病院では、より一層安心して薬物療法が継続できるようサポートしていきます。

リハビリテーション技術科

リハビリテーション技術科では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で急性期のリハビリテーションを主体に早期離床と廃用症候群(病気やケガなどで身体を動かさない状態が続く、安静や日常生活の不活発に伴って生じる身体的・精神的諸症状の総称)の予防に努め、日常生活自立へ向けて安全で安心なリハビリテーションを提供するよう心掛けています。リハビリテーションを実施する部屋は5階と1階の2つに分かれており、5階のリハビリテーション室は入院患者さんを対象としています。整形外科と脳神経外科の病棟とは同フロアのため病棟からの移動がスムーズになり、今まで以上に使用しやすくなっています。面積も約1.5倍になり、言語訓練として防音性の高い個室が3部屋あり、平行棒やエルゴメーターなどの医療機器も増加し施設面でもかなり充実しました。また屋外のリハビリ庭園へ行くことができ、屋外歩行訓練の実施や外気環境にふれ、リフレッシュすることも可能です。入院生活での早期回復をサポートしていきます。

1階の外来心臓リハビリテーション室では心疾患の患者さんに対して、通院でのリハビリテーションを提供しています。最新のフィットネス機器や体力測定機器が揃っており、よりよい外来心臓リハビリテーションの提供が可能となっています。



5F リハビリテーション室

放射線技術科

放射線技師は、医師の指示のもと放射線を用いて検査や治療を行っています。放射線を用いた検査には一般撮影、CT、アイソトープ検査、血管撮影などがあります。その中でも一般撮影、CT、MRI検査においては待ち時間が長くなってしまうことが懸念されてきましたが、新病院では装置の台数も増えるため、待ち時間の短縮が期待されます。

また、検査・治療で使用される装置のほとんどが、新病院で新しくなります。最新の技術を搭載した装置や、検査の苦痛を軽減するようなデザイン設計になっているものなど患者さんによりよい検査を受けていただく工夫がされています。また、検査待合は現病院のスペースより拡大しており、検査についての注意事項や待ち時間などを表示するモニターが設置されます。



1F 2番待合(CT・一般撮影)



1F 受付5(放射線検査)

臨床検査技術科

臨床検査技術科は患者さんの血液や尿といった検体を検査する他、心電図や超音波エコーなどの各種検査をしています。また、採血室にて直接患者さんから採血もしています。

新病院では、今まで2階にあった採血室と生理検査室が1階へと移動します。これにより心電図や放射線検査といった検査関連の受付が1階に集中するため、階段を上がったり下がったりといった移動が以前よりも少なくなります。また、採血室が中央処置室と隣接することになりました。今まで採血と点滴と別々で針を刺していましたが、一括で処置を行うことが出来るようになり、針を刺す回数を減らすことが出来ます。さらに、新たに有人受付を設けることで患者さんがお尋ねしやすい環境を作っています。



1F 受付2(中央処置・採血・採尿)

医療技術科 栄養管理係 (現:栄養科)

栄養科では、安全・安心で美味しい患者給食を提供するために必要な給食管理を行っています。また、患者さんに対する個人栄養相談や糖尿病教室・腎臓病教室等の集団栄養相談、栄養サポートチーム(NST)をはじめとするチーム医療にも力を入れており、患者さんが疾病からの早期回復を目指し活動しています。

～新病院で変わるところ～

● 選択食の見える化 ●

現病院では毎日朝食と夕食をA食・B食のどちらにするか、選択用紙へご記入いただいております。

新病院では、床頭台につくタッチパネルにて注文が可能となります。(※一部選択いただけない食種もございます)。

入院中のお食事、是非お楽しみください。

● 栄養支援の開始 ●

現病院では、入院中の患者さんの栄養相談・支援を行っています。

新病院では、入院前から患者さんの栄養支援を行うことにより、低栄養・過栄養の予防を行います。さらに、アレルギー・食形態のご相談も行います。栄養支援の際にはお気軽にご相談ください。



臨床工学技術科 (現:臨床工学室)

現在、臨床工学室には臨床工学技士(CE)が11名所属しており、人工呼吸器や人工心肺装置、人工透析装置などの「生命維持管理装置」の操作をはじめ、院内の医療機器の保守管理を担い安全に使用できるように努めています。また内視鏡業務や心臓カテーテル業務にも携わっており、検査や治療の介助を行っています。

新病院では中央管理(医療機器の情報や修理・購入・廃棄などを一元的に管理すること)する医療機器が増えるとともに、機器管理システムが導入されます。院内の医療機器の貸出・返却状況を正確に把握することができ、保守点検や修理状況などをまとめて管理することで、各医療機器を効率良く運用することができます。

また勤務体制が呼出体制から日当直体制に変わり、24時間365日CEが常駐します。そのため医療機器のトラブルや緊急カテーテル検査、緊急透析等に迅速に対応でき、常に安全な医療を受けられる体制が整っています。



2F 透析室

看護局

令和7年4月に、①新病院開院、②常滑市民病院との経営統合、③地方独立行政法人化という3つの変革がスタートします。看護局では、ここに向けて数年前からプロジェクトチームを立ち上げ職員一丸となって準備を進めてきました。準備を進める職員はワクワクを共有しながら新病院へ向けて取り組んでいます。

新病院では、4人部屋・2人部屋・個室という入院病床になります。各部屋には洗面台が設置され、大きな窓から明るい光が入るようになっていきます。夜間は隣の人の明かりが漏れないような構造から睡眠の妨げを防ぐ工夫がされています。また、スタッフステーションはU字型の作りとなり、まわりを見渡せ、観察室が近くにあり、安全に、そして業務効率を考えた構造になっています。

外来においては、1階フロアで採血や放射線検査等様々な検査が完了できる構造となっています。また待ち時間等を過ごしていただくカフェエリアもできますので是非ご利用ください。

そして、知多半島総合医療機構のシンボルマークが公募により決定しました。曲線は、人が互いに手を差し伸べ合う姿が表現されています。地域や市民、職員同士の様々なつながりやコミュニケーションを連想できるデザインとなっています。



私たち看護職は、このシンボルマークのように「つながり」を意識し、知多半島の医療を守る存在としての責任と誇り、地域の皆様方からの笑顔と期待を原動力に日々邁進していきます。



4人部屋



4B スタッフステーション



個室



デイルーム

事務職

事務職は主に医療情報管理室、医事課、管理課から構成されています。

院内のさまざまな事務作業を担当し、適正な病院運営を行うため、医療職員と患者さんの円滑なコミュニケーションを裏で支えています。患者さんの情報の管理、診療費に関する相談、請求処理などの幅広い業務を担っています。

～新病院で変わること～

新病院でのお支払いは原則、会計窓口から自動精算機へ変更となります。自動精算機の台数は2台から4台に増台し、待ち時間短縮を図ってまいります。

また、保険確認等の受付を最大6席まで拡大し、マイナ保険証のオンライン資格確認認証機器も大幅に増設予定です。

新病院ではこれまで以上に患者さんがスムーズに診療を受けられるよう取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



2月21日時点の様子です。
素敵なステンドグラスが患者さんをお迎えます♪

あとかぎ

今回で、半田病院だよりは最終号です。新病院移転後も医療を通じて地域社会に貢献するという思いは変わらず、これからも知多半島の医療を支えていきます。

なお、令和7年7月より病院広報誌として、知多半島総合医療機構広報誌「てとて」を発行します。今後も皆さんに有益な情報を発信していきますので、よろしくお願いいたします！

交通アクセス

車

知多半島道路 半田中央ICから約5分、半田ICから約8分

公共交通機関

ご利用に便利な最寄駅は
名鉄河和線「知多半田駅」、JR武豊線「半田駅」となります。

名鉄 知多半田駅	路線バス/タクシー/ 自家用車 約20分	知多半島総合 医療センター
JR 半田駅	タクシー/自家用車 約20分	

路線バス(令和7年4月1日から運行開始予定)

名鉄河和線「知多半田駅」から
路線バス 知多半島総合医療センター線で約20分

半田市民専用タクシー制度(令和7年4月1日から運行開始予定)

市内自宅⇄新病院に限り、片道1乗車1,000円(ご利用上の条件あり)

※路線バス・タクシー制度については半田市が運営するサービスです。詳しくは半田市役所 都市計画課ホームページをご覧ください。



半田市立半田病院 広報部会 (事務局 管理課)

〒475-8599 愛知県半田市東洋町2丁目29番地 TEL 0569-22-9881 FAX 0569-24-3253
Eメール byouin@city.handa.lg.jp URL <https://www.handa-hosp.jp>



ホームページ



YouTube